

対外日本語普及を考える ——タイにおける仏英独中の対外言語普及活動事例を通して——

山口雅代

1. はじめに

近年、さまざまな国が海外における自国言語普及に力を入れ始めた。もっとも顕著な例は、2004年に設立された中国の孔子学院(Confucius Institute:以下 CI)であろう。歴史的に古いものに1883年に設立されたフランスのアリانس・フランセーズ(Alliance Française:以下 AF)がある。英国にも1934年設立のブリティッシュ・カウンシル(British Council:以下 BC)があり、ドイツにも1951年に設立されたゲーテ・インスティトゥート(Goethe Institute:以下 GI)がある。日本には、1972年に設立された国際交流基金(Japan Foundation:以下 JF)がある。

これらの機関は、国際交流基金(2003)では「国際交流機関」と呼ばれ、国際文化振興協会(1964:10-12)では、「文化交流機関」と呼ばれている。セバスチャン・川村(1999:18-43)は「自国語普及政策」でアリانس・フランセーズ(AF)とブリティッシュ・カウンシル(BC)を取り上げ、川村・岸(2004:22-27)は「対外文化政策」で、アリانس・フランセーズ(AF)、ブリティッシュ・カウンシル(BC)、ゲーテ・インスティトゥート(GI)を取り上げている。『比較教育学紀要』(2008)は「対外言語政策」として特集を組み、その中で近藤(2008:2)は「対外言語教育政策」として、これらの機関を取り上げている。山川(2010:55-69)は、ゲーテ・インスティトゥート(GI)を対外文化教育政策の中で述べている。このように、各々の機関の研究は進んできているが、これらを結びつけた研究はまだ少なく、海外における日本語普及に関する議論は見受けられないのが現状である。そこで、海外における日本語普及を考えるため、他の対外言語普及を担っている機関がどのような活動をしているか見ていく。チェンマイでの調査を交え、海外における日本語普及について考えてみたい。本稿は、言語普及に言及するため、これらの機関を対外言語普及機関とする。尚、対外言語普及機関の記載は設立年の早い順とする。

2. 対外言語普及機関の活動事例

タイでの言語普及活動をみる前に、世界における活動を見ていこう。対外言語普及機関の拠点・提携校・ネットワーク数をそれぞれのウェブ⁽¹⁾を2011年に検索した結果が表1である。

拠点数が最も多いのは、アリانس・フランセーズ(AF)で136か国に968の拠点がある。次に2004年に設立された孔子学院(CI)が続くが、孔子学院(CI)については、現地の教育機関との提携校数である。孔子学院(CI)の戦略として、大学に設置されるものを「孔子学院」、大学以外の教育機関などに設置されるものを「孔子課堂」として世界に数を増やしている。「孔子学院」

と「孔子課堂」を合わせ、孔子学院(CI)と呼ばれている。「孔子学院」の数が303、「孔子課堂」が265ある。2004年に孔子学院(CI)が設立されたことから考えると、急速に提携校を増やしており、その勢いのほどがうかがえる。それに比べると、国際交流基金(JF)の拠点数が非常に少ないことが見て取れる。その22の拠点数の少なさを補うように、2012年1月現在43カ国118の日本語教育機関をつなぐJFにほんごネットワーク(通称:さくらネットワーク)を設定した⁽²⁾。118のさくらネットワークの中には、21の拠点も含まれ(ニューヨーク日本文化センターを除く)、それ以外の97が各国の教師会や学会、大学と連携したものである。

表1. 世界の拠点・提携校・ネットワーク数

機関名	設立年	拠点・提携・ネットワーク(国)	備考
AF	1883	968(136)	
BC	1934	200以上(110)	
GI	1951	149+10=159(92)	10は関連機関
JF	1972	22(21)・118(43)	22は拠点、118はさくらネットワーク
CI	2004	303+265=568(96)	303は孔子学院、265は孔子課堂

アリアンス・フランセーズ(AF)は、岸(2003:331-362)によると、現地採算性をとる現地法人であり、全体の予算の公開は行っていないとしている。日本の外務省でも1980年までは『外交白書』『文化交流』で、対外言語普及機関の予算額を示しているが、アリアンス・フランセーズ(AF)だけは不明と明記されている⁽³⁾。

ブリティッシュ・カウンシル(BC)は、Annual report(2009-10:58)⁽⁴⁾によると公的資金が2億1100万ポンド(295.4億円(1£=¥140))、総予算が7億500万ポンド(987億円)、公的資金率は約30%である。渡辺(2003:204)によると、約1/3が「政府補助金」、1/3が英語教授・試験などの「事業収益」、1/3が政府・民間との契約活動と海外開発協力による「事業収益」であると述べている。

ゲーテ・インスティトゥート(GI)は、川村・上藤(2003:302)によると公的資金が3億4000マルク、その他の収入が1億3000万マルク、公的資金率は62%である。ゲーテ・インスティトゥート(GI)のFinances(2009/2010:17-19)⁽⁵⁾によると、予算が2億9016.2万ユーロ(348.1944億円(1€=¥120))、公的資金が2億2254.1万ユーロ(267.0492億円)であることから、公的資金率は76%になり、以前より公的資金の割合が増えていると言えよう。

国際交流基金(JF)は、『国際交流基金2007年度年報』(2007:49)⁽⁶⁾によると、2007年度の総予算額が164.91億円、そのうち公的資金と見られる交付金が130.49億円とあり、公的資金率は79%になる。しかし、2009年度の『国際交流基金2009年度年報』(2009:50)⁽⁷⁾を見ると、総予算額171.48億円に対し、公的資金が約125.68億円とあり、公的資金率は73%となり、2007年度に比べると減少している。このことから、総予算額は増えているが、公的資金は減少していると言

える。

孔子学院(CI)は、孔子学院規則(試行)21条で「新設される孔子学院に対し、中国側は一定の初期経費を投入すると明示している。年間プロジェクト経費は外国側と中国側が共に負担し、その割合は通常1:1の比率となる」と規定されている⁽⁸⁾。2010年のAnnual report(2010:51)⁽⁹⁾によれば予算は137,761千ドル(137.761億円(1\$=¥100))とある。

ブリティッシュ・カウンシル(BC)とゲーテ・インスティトゥート(GI)は2009-2010年の予算、国際交流基金(JF)と孔子学院(CI)は2010年の予算をグラフにしたのが図1である。拠点数と併せて考えると、孔子学院(CI)は、提携校数が多いのにもかかわらず最も予算が少ない。国際交流基金(JF)は、孔子学院(CI)の次に予算が少ないが、22の拠点数と118のさくらネットワーク数を考えると、拠点当たりの予算がどこよりも多いと推察できる。ブリティッシュ・カウンシル(BC)だけが公的資金以外の予算が多いことがわかる。

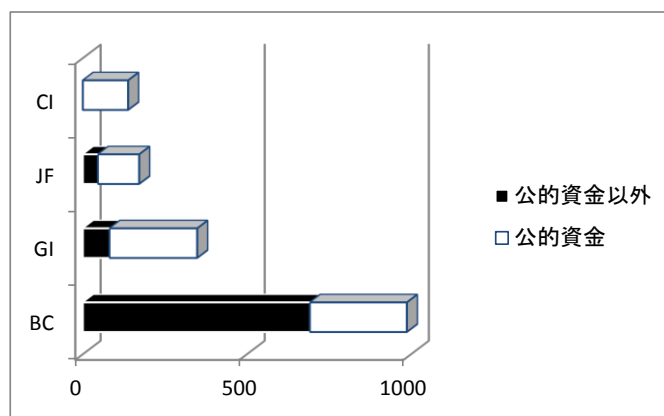


図1：予算

3. タイにおける対外言語普及活動事例

3.1 拠点・提携校数と言語教育

表2は、タイにおける対外言語普及機関の拠点を各々のウェブ⁽¹⁰⁾から検索したものである。

アリアンス・フランセーズ(AF)は、フランス語とフランス文化の促進を目的とし、1912年に設立された。北部にチェンマイ・チェンライの2拠点和バンコクに1拠点、南部のプーケットに1拠点の計4拠点を設けている。フランス語講座として、子供用講座2、青少年用講座4、大人用講座23ある。フランス語以外にもタイ語講座を開講している。フランス語のコースはすべてヨーロッパ共通参照枠(Common European Framework of Reference for Languages 以下CEFR)の6レベル(A1～C2)⁽¹¹⁾に沿ったもので、授業料はだいたい1時間あたり200バーツである。

ブリティッシュ・カウンシル(BC)は、タイとのパートナーシップの促進を進めるため1938年に設立された。バンコク市内の3カ所のセンターと、北部チェンマイに1カ所の計4拠点を持つ⁽¹²⁾。ブリティッシュ・カウンシル(BC)のバンコクの3拠点には英語講座として、子供用講座72、青少年

用講座 106、大人用講座が 130 以上設けられている。授業料はアリアンス・フランセーズ(AF)と比べると高く設定されており、1 時間あたり平均 250 バーツである。

ゲーテ・インスティトゥート(GI)は、バンコクに 1 拠点のみであるが、2010 年 3 月にゲーテ・インスティトゥート(GI)のウェブ⁽¹³⁾を詮索したところ、ゲーテ・インスティトゥート(GI)以外に提携校として、プーケットに 1 校、チェンマイに 2 校、バンコクに 1 校、計 4 校の提携校の記載があった。チェンマイの 2 校のうち 1 校はドイツ人子弟の通う学校で、もう 1 校はタイ人用のドイツ語を学ぶドイツ語センターである。ゲーテ・インスティトゥート(GI)で行われる講座は、A1 から C2 までの CEFR に沿った 6 レベルだけでなく、試験対策講座やドイツの大学入学に備えた講座など 26 レベルの講座が用意されている。1 時間当たりの授業料は平均 100 バーツである。

表 2. タイにおける対象機関設立年と拠点・提携校数

機関名	設立年	拠点・提携校数(BKK:バンコク、CM:チェンマイ)				
		中部(BKK 含)	北部(CM 含)	東北部	南部	計
AF	1912	1	2	0	1	4
BC	1938	3	1	0	0	4
GI	1960	1	0	0	0	1
JF	1974	1	0	0	0	1
CI(孔子学院) (孔子課堂)	2006	5	3	1	2	12
		8	2	0	2	11

国際交流基金(JF)は、1974 年にバンコクに事務所が開設されて以来、バンコクに 1 拠点であるが、さくらネットワークとしてバンコクにチュラロンコン大学・タマサート大学の 2 つの大学、東北部ではコンケン大学、全国区としてタイ国日本語日本文化教師協会の計 4 つのさくらネットワークがある⁽¹⁴⁾。それ以外に 2010 年 4 月時点で、バンコクに専門家 3 名、コンケン大学(東北部)に 1 名、タイの中等教育に 2 名、計 6 名派遣している⁽¹⁵⁾。国際交流基金(JF)は、初級コースは設定しておらず、中・上級の講座のみである⁽¹⁶⁾。上級は 6 講座、中級は 7 講座、それ以外に漢字と発音トレーニングを 1 講座ずつ開講している。1 時間当たりの授業料は、44.5 バーツである。これらの講座以外では、中等教育教師研修など限られた層への支援を行っている。

孔子学院(CI)は、玉置(2010:129-135)によると 2006 年 8 月に東北部のコンケン大学に第 1 校ができ、タイにおける孔子学院の数は米国(56)、英国(26)についで 3 番目に多く 23 校であるとしている。内訳⁽¹⁷⁾は、バンコク(BKK)を含む中部に、「孔子学院」が 5 つ(ラジャパット教育大学(BKK とスパブリー)、チュラロンコン大学、カセサート大学、ブラパー大学)と「孔子課堂」が 8 つ(中華街の高校、チョンブリーの高校、ノンタブリーの教室、ラヨーンの教室、ラチャブリーの教室、

他3)ある。チェンマイ(CM)を含む北部に「孔子学院」が3つ(メーホールワン大学、チェンマイ大学、マハサラハム大学)、「孔子課堂」が2つ(ランパーン、ピサヌローク)あり、東北部に「孔子学院」が1つ(コンケン大学)ある。南部には、「孔子学院」が2つ(プリンスオブソンクラ大学(プーケットとソンクラ))と「孔子課堂」が2つ(ハジャイ、プーケット)ある。その他、教育機関以外の提携の他にも、2009年5月から2010年3月まで第8陣約1,000名の中国語教師ボランティアが中国からタイに派遣され、2011年には1,202名が派遣された⁽¹⁸⁾。

3.2 各言語試験

次に試験について見ていこう。2011年8月時点のものである。アリアンス・フランセーズ(AF)で受験できる試験として、DELFD (Diplôme d'études en langue française)A1・A2とDALF (Diplôme approfondi de langue française)B1・B2・C1・C2、さらに青少年用の試験として DELF juniorA1・A2・B1・B2がある⁽¹⁹⁾。この試験はCEFRの6レベル(A1～C2)と対応している。レベルは、初級のA1・A2、中級のB1・B2、上級のC1・C2である。受験料は、安いもので DELFA1・A2と DELF juniorA1・A2で1,500バーツ、高いもので、DALFC1・C2で2,700バーツである。

ブリティッシュ・カウンシル(BC)で受験できる試験として IELTS(アイエルツ: International English Language Testing System)があり、この試験もCEFRと対応している。受験料は一律6,300バーツである⁽²⁰⁾。その他にも中等教育向けのIGCSE(International General Certificate of Secondary Education Exams)や用途に合った試験(BMAT(Biomedical Admissions Test)、ELAT(English Literature Admissions Test)、PPE(Philosophy, Politics and Economics Admissions)、TKT(The Teaching Knowledge Test))がある。

ゲーテ・インスティトゥート(GI)で行われる試験もCEFRレベルに沿っていて、ジュニア用試験もある⁽²¹⁾。受験料は初級のレベルでは2,500バーツであるが、上級レベルほど受験料は高く設定されている。

日本語能力試験は、上のレベルのN1から初級のレベルのN5と5レベルあり、受験料はN1～N3が800バーツ、N4・N5が600バーツである⁽²²⁾。

中国語の試験は、2010年よりCEFRに合わせた新試験を導入した。受験料はもっとも安いもので初級のHSK(漢語水平考試: Hanyui Shuipin Kasoshi)1級で500バーツ、もっとも高いもので高級のHSK6級、1,200バーツである。さらに子供用としてYCT(Youth Chinese Test)の口頭試験と筆記試験が設定され、これらもCEFRに準じたものとなっている⁽²³⁾。

表3は、一般試験を表にしたものである。日本語能力試験以外はCEFRに準じた記述があるが、日本語能力試験は、CEFRレベルの明記がないため、表にはあげていない。()は受験料をバーツで示した。表3を見ると中国語の試験が最も安いことがわかる。しかし日本語能力試験は、中国語の試験よりも級によっては安い。表4はジュニア用の試験である。英語にも中等教育用の試験IGCSEがあるが、CEFRのレベルが明記されていないため、表にはあげていない。日本語能力

試験はジュニア用の試験がないが、子供から社会人、大学入学に至るまで幅広く活用されている。

表 3. 一般試験(()内は受験料)

CEFR	フランス語 DELF/DALF	英語 IELTS (6300)	ドイツ語	中国語 HSK	
				口頭	筆記
A1	DELFA1 (1,500)	—	SD1 (2,500)	初級	1 級 (500)
A2	DELFA2 (1,500)	3.0	SD2 (2,500)		2 級 (600)
B1	DELFB1 (1,870)	3.5/4.0/4.5	ZD (4,800)	中級	3 級 (700)
B2	DELTB2 (2,040)	5.0/5.5/6.0	B2 (9,000)		4 級 (800)
C1	DALFC1 (2,700)	6.5/7.0	C1 (11,000)	高級	5 級 (1,000)
C2	DALFC2 (2,700)	7.5+	C2 (13,000)		6 級 (1,200)

表 4. ジュニア用試験(()内は受験料)

CEFR	フランス語	ドイツ語	中国語	
			口頭	筆記
A1	DELF junior A1 (1,500)	Fit1 : 10 歳以上 (2,500)	初級 (200)	1 級 (100)
A2	DELF junior A2 (1,500)	Fit2 : 10 歳以上 (2,500)		2 級 (200)
B1	DELF junior B1 (1,870)	ZDj : 12 歳以上 (4,800)		3 級 (300)
B2	DELF junior B1 (2,040)		中級(200)	4 級 (400)

3.3 チェンマイにおける対外言語普及機関の活動事例

こうしてみると、国際交流基金(JF)以外の他の機関がすべてチェンマイに拠点やあるいは提携校を持っている⁽²⁴⁾。ゲーテ・インスティトゥート(GI)は、提携校をチェンマイに2校持つようになった。では、なぜこれらの機関がチェンマイに拠点や提携校を持つのだろうか。

チェンマイは、タイ北部に位置しミャンマーやラオスとの国境に接し、ラオスの首都ビエンチャンやミャンマーの首都ネピドーにも近い。さらに、中国雲南省の昆明市に伸びる道路があり、直行便があるなど、昆明との交流も盛んで、タイ北部の要所と言える。

2010年3月チェンマイの各機関を訪問した。その折にわかったことについて報告する。

チェンマイのアリانس・フランセーズ(AF)は、1968年に設立された。常勤フランス語教師が2名おり、そのうちの1名はフランス領事との兼務で、在職年数は25年以上である。子供用コースが1コースあり、料金は2,200バーツである。一般コースが8コースあるが、定員が集まらなければ開講せず、2010年3月時には6コースが開講されていた。受講料は、コースによって異なるが、2,000～2,500バーツである。学生定員数は、450人で、学生が多くなれば教師を募集する。アリانس・フランセーズ(AF)は、領事館に隣接し、図書館やカフェがあり、誰でも自

由に入ることができる。

チェンマイのブリティッシュ・カウンシル(BC)は、1985年に設立された。常勤講師が6名、それ以外に10名のボランティア教師が英国から派遣されている。子供には複数のレベルが用意されている。5歳から7歳のコースが2レベルあり、受講料は5,000バーツから7,000バーツである。7歳から11歳が6レベル、4,750バーツから7,500バーツ、12歳から15歳のレベルが5レベル、6,350バーツから6,600バーツである。さらに夏休みには、5歳から15歳の混合グループのコースが設定されているなど、ニーズに応じた多彩なコースを子供のために用意している。登録している子供の数は1,200人である。大人用では、一般のレベルが5レベルで40時間5,500バーツ、会話レベルが4レベルで、20時間5,400バーツ、試験準備が2コースあり、40時間8,700バーツである。ブリティッシュ・カウンシル(BC)もアリアンス・フランセーズ(AF)と同様、領事館に隣接し、カフェもあり、自由に入れる。

ゲーテ・インスティトゥート(GI)の提携校であるドイツ語センターは、2005年に設立され、4名のドイツ人講師がおり、3名は大学の研修生としてドイツから派遣されている。タイ人講師は3名おり、1名は常勤で2名は非常勤講師としてドイツ語を教えている。レベルは5レベルある。受講料は、30時間で6,000バーツ、100時間で20,000バーツである。

チェンマイの孔子学院(CI)はチェンマイ大学のLanguage Instituteの中にあり、2006年12月18日に雲南師範大学と提携した。学院長1名が、雲南師範大学から派遣され、それ以外は中国語教師ボランティア10名が孔子学院から派遣されている。中国語教師ボランティアの任期は1年だが、雲南師範大学とは永続的な提携である。レベルは4レベルあり、受講料は、50時間で3,000バーツから3,500バーツである。

4. まとめ

以上のことから、世界における活動では国際交流基金(JF)は拠点数も資金面も少ないと言える。

タイでの活動については、アリアンス・フランセーズ(AF)、ゲーテ・インスティトゥート(GI)が講座も試験もCEFRに合わせている。また、一般用試験以外にもジュニア用の試験も用意され、CEFRに沿っている。ブリティッシュ・カウンシル(BC)は、多くの講座を持ち、受講料も英語の試験受験料も最も高い。孔子学院(CI)は、タイの北から南に至るまで教育機関との連携が行われている。中国語の試験も一般用の試験だけでなくジュニア用ともCEFRに合わせたものである。

チェンマイには、ゲーテ・インスティトゥート(GI)と国際交流基金(JF)はない。しかし、ゲーテ・インスティトゥート(GI)は、提携校を持っている。アリアンス・フランセーズ(AF)とブリティッシュ・カウンシル(BC)は、領事館に隣接しており、子供から大人まで幅広い層へ言語教育を行っている。チェンマイの孔子学院(CI)は、提携している雲南師範大学と永続的な提携を行い、学院長は雲南大学から派遣される。

今回の調査から、国際交流基金(JF)は、他の対外言語普及機関のように幅広い層へ言語教育を行っていないことがわかった。さまざまな言語を学ぶ時、誰もが気楽に日本語を選択してほしいと、日本語教育に従事する者なら思うはずである。拠点数が多ければよいというものでは決していない。しかし、海外の日本語普及について他の対外言語普及機関の活動に目を向け議論していくべきであろう。

謝辞

チェンマイの調査ではチェンマイ大学のワライポン先生とティラート先生に、バンコクではニダー大学のナティニー先生ご協力いただいた。ここに感謝申し上げる。

注

(1) AF:Foundation Alliance Française

<<http://www.fondation-alliancefr.org/spip.php?rubrique1>>2011年8月1日

BC: Annual Report Global network(2007-2008)から、カウントした結果200であった。しかしタイの拠点は2拠点となっており、注(10)では4拠点とあることから200以上とした。

<<http://www.britishcouncil.org/new/PageFiles/13001/2007-08%20Annual%20Report.pdf>> 2011年1月25日

GI: Network Goeth-Institut <<http://www.goethe.de/ins/enindex.htm>>2011年1月25日

JF: ジャパンファウンデーション 海外ネットワーク

<<http://www.jpf.go.jp/world/jp/index.html>>2011年8月3日

CI: Hanban (Confucius Institute Headquarters) Annual Report2010:5 から拠点数をカウント

<[http://www.hanban.org/report/pdf/2010_final.pdf#search='Hanban \(Confucius Institute Headquarters\) Annual Report2010'](http://www.hanban.org/report/pdf/2010_final.pdf#search='Hanban+(Confucius+Institute+Headquarters)+Annual+Report2010')>2011年8月3日

(2) 国際交流基金「日本語教育 JF にほんごネットワーク」

<<http://www.jpf.go.jp/j/japanese/network/index.html>>2012年1月6日

(3) 1980(昭和55)年度版(第24号)付表「7文化関係」『外交青書 我が外交の近況』

<<http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/bluebook/1980/s55-contents-302.htm>>2009年5月25日

(4) Annual report 2009-2010

<<http://www.britishcouncil.org/new/PageFiles/13001/2009-10%20Annual%20Report.pdf>> 2011年8月3日

(5) Finances 2009/2010

<http://www.goethe.de/uun/pro/jb10/rechenschaftsbericht_gi2010.pdf>2011年8月3日

(6) 『国際交流基金 2007 年度年報』(2007)

- <<http://www.jpf.go.jp/j/about/outline/result/ar/2007/img/ar2007.pdf>>2009 年 5 月 25 日
- (7) 『国際交流基金 2009 年度年報』(2009)
<<http://www.jpf.go.jp/j/about/outline/result/ar/2009/img/ar2009.pdf>>2011 年 8 月 3 日
- (8) Hanban 「孔子学院規則(試行)」
<http://japanese.hanban.org/kzxy_list.php?ithd=xyzc>2009 年 6 月 3 日
- (9) Hanban (Confucius Institute Headquarters) 2010 Annual Report
<[http://www.hanban.org/report/pdf/2010_final.pdf#search='Hanban \(Confucius Institute Headquarters\) Annual Report2010'](http://www.hanban.org/report/pdf/2010_final.pdf#search='Hanban (Confucius Institute Headquarters) Annual Report2010')>2011 年 8 月 3 日
- (10) 2011 年 8 月 3 日以下検索
Alliance Française de Bangkok <<http://en.alliance-francaise.or.th/>>
British Council Thailand <<http://www.britishcouncil.org/thailand.htm>>
Goethe-Institut Bangkok <<http://www.goethe.de/ins/th/ban/deindex.htm>>
バンコク日本文化センター日本語部 <<http://www.jfbkk.or.th/jl/jl.html>>
- (11) CEFR の 6 レベルは、基礎段階の言語使用者 A1 と A2、自立した言語使用者 B1 と B2、熟達した言語使用者 C1 と C2 がある(吉島 2004 :23-25)。CEFR は吉島(2004)参照。
- (12) Annual report 2009-2010 では、タイの拠点数はバンコクとチェンマイの 2 拠点になっているが、British Council Thailand のウェブ(注(10))ではバンコクに 3 拠点とチェンマイに 1 拠点、計 4 拠点とある。
- (13) Goethe-Institut Bangkok
<<http://www.goethe.de/ins/th/ban/lks/spr/deindex.htm>>2010 年 3 月 3 日
- (14) 国際交流基金「日本語教育 JF にほんごネットワーク」
<<http://www.jpf.go.jp/j/japanese/network/index.html>>2011 年 9 月 29 日
- (15) 国際交流基金「日本語教育国別情報 タイ」
<<http://www.jpf.go.jp/j/japanese/survey/country/2010/thailand.html#HAKEN>>2011 年 9 月 29 日
- (16) バンコク日本文化センター日本語部
<<http://www.jfbkk.or.th/jl/jl.html>>2011 年 8 月 3 日
- (17) Confucius Institute Thailand からカウント
<http://college.chinese.cn/en/node_3742_2.htm>2010 年 3 月 30 日
- (18) Confucius Institute Online
<http://www.chinese.cn/college/article/2011-05/24/content_262435.htm>2011 年 8 月 3 日
- (19) Alliance Française de Bangkok CERTIFICATIONS IN FRENCH
<<http://alliance-francaise.or.th/>>2011 年 8 月 1 日
- (20) British Council Thailand Exams

<<http://www.britishcouncil.org/thailand-exams.htm>>2011年8月1日

(21) Goethe-Institut Bangkok Learning German: Examination

<<http://www.goethe.de/ins/th/ban/lrn/prf/zop/enindex.htm>>2011年8月1日

(22) Old Japan Student's Association Thailand

<<http://www.ojsat.or.th/main/2009-11-13-10-31-47/343--2--2554-->>2011年8月1日

(23) Hanyui Shuiping Kaoshi

<<http://www.mcru.ac.th/fileUpload/HSK4.pdf>>2011年8月1日

(24) 2008年チェンマイ大学人文学部の中に日本研究センターが設立された。

参考文献

- 川村陶子・上藤文湖(2003)「V ドイツ」『主要先進諸国における国際交流基金調査報告書』、国際交流基金、pp245-327
- 川村陶子・岸清香(2004)『「文化」は戦略化する 英・独・仏にみる対外文化政策の展開』『遠近10月号』、国際交流基金、pp22-27
- 岸清香(2003)「VI フランス」『主要先進諸国における国際交流基金調査報告書』、国際交流基金、pp328-381
- 国際交流基金(2003)『主要先進諸国における国際交流機関調査報告書』、国際交流基金
- 国際文化振興会(1964)『KBS 30年のあゆみ』、国際文化振興会
- 近藤隆弘(2008)「対外言語政策：特集の趣旨」『比較教育学研究』37、日本比較教育学会、p2
- セバスティアン・グループ＝ケネカー・川村陶子(1999)「日本における英国とフランスの自国語普及政策一言語を通じた国際関係運営の二つのケース」『外国語研究紀要』4、東京大学大学院総合文化研究科教養学部外国語委員会、pp18-43
- 玉置充子(2010)「中国の対外中国語教育：『漢弁』と孔子学院」『海外事情』58(3)、拓植大学海外事情研究所、pp122-140
- 山川智子(2010)「ゲーテ・インスティトゥートのドイツ言語普及政策ーヨーロッパ統合の文脈におけるドイツの対外文化教育政策から、日本が学べることー」『科学／人間』39、関東学院大学工学部教養学会、pp55-69
- 日本比較教育学会紀要編集委員会(2008)『比較教育学研究』37、日本比較教育学会
- 吉島茂他訳編(2008)『外国語教育Ⅱ 外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠 *Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment*』、朝日出版社
- 渡辺愛子(2003)「IV 英国」『主要先進諸国における国際交流基金調査報告書』、国際交流基金、pp166-244